

## ■提言のまとめ

昨今、経済合理主義への反省から、ゆっくり、のんびり、手間暇かけてという『スローライフ』や『ロハス』LOHAS=Lifestyles of Health and Sustainabilityのような、健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルが浸透しつつあります。これは正に本物へのこだわりであり、消費者のニーズや価値観が変化してきている兆しです。また環境保全や社会的公正という観点でも『ものづくり』や『職人思考』が再評価されつつあります。

今後の地場産業を見直すにあたり、これらの変化の流れを汲み、『持続可能な開発』という新たな視点で捉えることが不可欠です。消費者が循環型社会を認識し、地域の産業にお金を使いたいと思うようになり、企業やメーカーは、CSR<sup>\*</sup>を導入しないと商品が売れなくなり競争に勝てない。というような、「信頼」や「責任」を重視するようなサイクルづくりが、今後の経済活動に求められます。

これは、そのためにがまんして地場産品を選んでもらおうということではありません。高いデザイン性やこだわりの品質、本物のサービスこそが、私たちのくらしや環境を豊かにするとともに、消費者の信頼と厳しい選択は地域の産業力を高め、関連して多くの雇用へとつながっていきます。

地場産業として今後も会津の経済基盤を支えていく漆器産業の今後の方向性として下記に提言をまとめます。

※CSR: Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)は、行政、民間、非営利団体のみならず、企業も経済だけでなく社会や環境などの要素にも責任を持つべきであるという考えのもとに成立した概念。

### ■提言・1 ロハスアイテムとして会津塗を再評価する

- (1) 木製品の活用・特に国産材を使用する場合はそれをアピールしていく。
- (2) リペア(修繕・塗替)によるリユース推進でもったいない精神をアピールしていく。
- (3) 漆の地産地消を目指し、絵ろうそくとともに従来の製法を見直す。

### ■提言・2 箸の商品開発による会津塗の活性化

- (1) もっとも身近である、会津塗による箸の商品化と普及に力を入れる。
- (2) 箸を携帯することを無形の『会津ブランド』に認定する。
- (3) 商工会議所青年部はもちろん諸団体でマイ箸を推進→  
会津若松市全体で『マイ箸宣言』を行うことで市民が一丸となって会津塗をPRする。